

不易流行

～和賀組社長からのメッセージ～

VOL.96 (2024.3.27)

令和5年度スローガン
みんなで目指す顧客感動経営
「顧客感動(CD)」から
「顧客ロイヤルティ(CL)」への挑戦
～和賀組さんで良かったと言われよう～

株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄

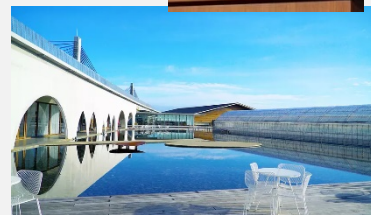
3月19日(火)第50回湯沢雄勝北都会が湯沢グランドホテルにて開催されました。講演会では三重県で複合温泉宿泊施設「アクアイグニス」と「VISON」を経営する立花哲也が、「VISON が挑む地域活性化と地方創生～すべてはいのちを喜ばせるために～」と題して講演されました。

立花氏は1974年三重県生まれで今年50歳。高校卒業後陶芸を学びたいという思いで東京芸術大学に挑戦するも叶わず、地元の建設会社にアルバイトとして入りました。測量、重機の運転、現場監督とあつという間に仕事を覚え、20歳で独立して5年後には社員は40人、元請の仕事も受注できるようになりました。その後ある会社の社員寮の運営を依頼されてノウハウを取得、そこからビジネスホテルを経営、さらには後継者のいない温泉宿の事業を引き継ぐことになりました。これがのちに第二名神高速道路建設に伴って約10億円で用地買収されることになり、手持ち資金数億と金融機関から10億借入れをして、癒しと食の総合リゾート「アクアイグニス」の建設に踏み切り、2012年にオープンしました。立花氏は地方の温泉宿に平日も客を呼ぶためにはスイーツが起爆剤になると考え、世界一のパティシエを招聘しようと東京自由が丘の名店『モンサンクレール』オーナーパティシエ辻口博啓を口説き落とし、さらに辻口氏の紹介で一流の料理人らを巻きこんで、アクアイグニスは年間110万人を集客するほどの成功を納めました。

このアクアイグニスの人気に同県多気町の町長が注目、江戸時代の本草学者の出身地であることから、薬草を軸にした町おこしをしたいと語る町長に立花氏は心を打たれ、大型プロジェクト「VISON」がスタートしました。立花氏と辻口氏はどうせやるなら圧倒的スケールの今までにないことをしよう話し、ヴィソンを食の聖地にするべく美食の街として知られるスペインのサンセバスチャン市をモデルと位置づけ交渉を開始、同市と多気町で「美食を通じた友好の証」を締結したいと無理を承知でお願いすると、20分だけ表敬訪問は受けるが、姉妹都市提携は無理と断られました。立花氏と町長はボール紙に書いた協定書を隠し持って入室、市の担当者から絶対に姉妹都市の話はしないようにと釘を刺されていましたが、担当者が席を外した隙に食材の宝庫である三重の素晴らしさを精一杯話して、協定書へのサインを依頼、市長は『これにサインしたら帰ってくれるんだね?』ということで笑いながらサインをしてくれました。

これを機に友好関係が築かれその後市長は多気町を訪問。ヴィソンにはサンセバスチャン市で人気の3つのバルが日本で初めて出店、2021年三重県多気町に全国初のスマートインターチェンジ直結の民間施設ヴィソンがオープンしました。

幸運を呼び込む力・情熱・執念・度胸・周囲を巻き込む力・・・事業家立花社長から多くの事を学ぶことができました。ご縁に感謝!!



台湾		見世出し	日本商工会議所通常会員総会	
	2月22日～25日友好都市を前提として台湾新北市板橋区を訪問、台南市で開催されたランタンフェスティバル			3/22に東京で開催され、小林健会頭は能登半島地震で被災した中小企業の再建に向け全面的な支援を行うと挨拶、来賓として出席した岸田文雄内閣総理大臣は、中小企業の質上げが成長型経済に移行する為にも重要であると挨拶しました。また被災地の七尾、能登、珠洲のそれぞれの商工会議所会頭が現状を報告、全国からの支援に感謝するとともに、引き続きの支援を要請されました。
	の視察にも参加することができました。			